

# 第 11 期 第 3 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】 令和元年(2019年)7月11日(木)16時30分から18時00分まで

【場 所】 豊中市青年の家いぶき 2階大会議室

【出席委員】 渡辺委員 浅利委員 花嶋委員 下村委員 原田委員 長谷川委員 新開委員  
中澤委員 岡田委員 神保委員 米田委員 澤村委員 大西委員  
(15名中13名出席：有効に成立)

【傍聴者】 0名

【事務局】 河本、糸井、勝井、吉村、永富、渡邊、内田、鈴木、射場、中村、藤田、中川、  
吉島、北野、大道、澤田、池田

【オブザーバー】 野口 (豊中市伊丹市クリーンランド事務局長)

## 1. 開会宣言 (事務局)

## 2. 配付資料確認

第 11 期 第 3 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事次第

資料 1 第 2 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り

資料 2-1 ハッピー (8%) ごみ減量プラン平成 30 年度 (2018 年度) 事業等報告書 速報版

資料 2-2 第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理の進め方について

資料 3-1 豊中市廃棄物減量等推進審議会意見答申 (案)

資料 3-2 一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について (諮問)

資料 3-3 2020 ごみ減量プラン平成 29 年度 (2017 年度) 事業評価報告書 本編 (抜粋)

資料 4 令和元年度 (2019 年度) 第 11 期豊中市廃棄物減量等推進審議会審議日程について

当日配付資料 令和元年度事業系一般廃棄物管理責任者研修会の開催について (ご案内)

豊中市伊丹市クリーンランド展望フロア一般開放デー案内チラシ

当日差替え資料：資料 3-1、3-2、3-3

## 3. 出欠確認および署名委員指名

本日の会議は公開とする。傍聴希望者は 0 名である。委員 15 名の内、13 名が出席のため過半数に達しており、審議会規定第 6 条により本日の会議は有効に成立している。議事録署名委員については、長谷川委員と米田委員に担当していただく。よろしく願います。

## 4. 審議

### 案件 1. 第 2 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返りについて

#### ○会長

それでは審議案件に入る。案件 1「第 2 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り」について事務局から説明をお願いする。

## ○事務局

(資料 1 に沿って説明)

## ○会長

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等あればお願いします。  
リサビットは今後も活用していく予定か。

## ○事務局

第 4 次ごみ減量計画事業等報告書の中で活用していく予定である。

## ○会長

ストーリー性を持たせて、リサビットが変化していくことに対して、容姿があまりよくないように見える表現方法は、気をつけた方がよいと考える。私たちも肖像・似顔絵というものに対しては非常に敏感になっており、前向きな表現の場合は良いが、そうでない場合は気をつけるようにしたいと考えている。

他に何かご意見等あるか。

## ○委員

私のマンションは 30 世帯あり、通常、ハッピーごみ減量通信は広報誌と一緒に配布されるが、今回は単独での配布であった。チラシの回収ボックスを見たが捨てられていなかったのも、皆さんそれなりに気に入っていただいたのだと個人的には思った。リサビットの顔が怖い顔になっているのは市民としては頑張らないといけないところなのだろうが、小学生なども見ることを考えると、成長するのでもいいがあまり怖いのもいけないだろうから、そういうところもご検討いただければと思う。

## 案件 2. 平成 30 年度 (2018 年度) 事業等報告書 (速報版) (案) について

### ○会長

続きまして「平成 30 年度 (2018 年度) 事業等報告書 (速報版) (案) について」事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

(資料 2-1 に沿って説明)

### ○会長

事務局からの説明の中で、特に各グラフの右下にある「審議会からの評価」についてご意見等あればお願いします。

### ○委員

家庭系ごみの排出量が災害ごみにより増えたということだが、地震と台風、両方含んでいるのか。

## ○事務局

両方含んだ発生量となっている。

## ○委員

内訳については把握しているのか。

## ○事務局

地震で約 400 トン、台風で約 700 トンという内訳になっている。

## ○委員

裏面には大阪北部地震が約 620 トン、台風 21 号が約 930 トンと記載があるが。

## ○事務局

「家庭系ごみ排出量」で記載している 1,077 トンについては、臨時ごみとして戸別に収集した分と、がれきが含まれていないため、裏面の記載と数字が異なっている。

## ○副会長

「ごみの焼却処理量」の要因分析において、「…災害により、家庭系ごみの増加が要因と推察されます。」という文章は、「…災害により、家庭系ごみが増加したことが要因と推察されます。」などとする方が日本語的によいと考える。また、「事業系ごみ排出量」の要因分析における「事業系排出量」を「事業系ごみ排出量」に、「再生資源の量・リサイクル率」の要因分析における「『再生資源の量』に減少については…」を「『再生資源の量』の減少については…」にそれぞれ修正をお願いする。

また、「再生資源の量・リサイクル率」右下枠外に「※各グラフの数値については速報値です。」とあるが、この速報値というのは、平成 30 年度の値のことか。その辺りを正確に表記したほうがよいと考える。

## ○事務局

各グラフの数値についての速報値のところは「平成 30 年度」を追記させていただく。また、その他の部分については修正させていただく。

## ○会長

再生資源の量とリサイクル率について、思うほど再生資源の量が増えずリサイクル率も上がらないというのは、新聞購読者の減少が要因となっている。あまり物を持たない社会になってくると、リサイクルする物も減って、再生資源の量も頭打ちになる。それが環境にやさしい暮らしであるとなればリサイクル率が低くても再生資源の量が少なくてもそれはそれで構わないが、それを言及するにはまだ早いと思う。しばらくこの傾向が続くのであれば、「レジ袋を減らしたから容器包装のプラスチックが伸び悩んでいて、よいことだ」としていくのもありかと思うが、現在のところは早急にそのような言い方をせず、(要因分析については)このような書き方でよいのではないか。

審議会としての見解を伺うというのが主目的ではあるが、それ以外のことで何かあればお願いする。

### ○委員

近所の住人が廃品回収業の方に厚紙などを渡し、代わりに豊中市の指定ごみ袋をもらっていたが、市の回収に出さずにそのようなことをしても良いのか。

### ○事務局

ダンボール・新聞紙・雑誌などの古紙類は「専ら物」であり、それらを専用に集めている廃品回収業者に売却することは特に問題はない。

### ○委員

私たちは、市の歳入になると思って市の回収に出しているが、廃品回収業者への売却行為は自分たちの利益を優先していると思われ、どうなのかと思って伺った。

### ○事務局

豊中市では、市に回収してもらおうべく排出していただいた資源を、廃品回収という民と民の取引によらず勝手に持ち去ってしまうケースがあり、非常に大きな問題となっていた。その点については勝手な持ち去りができないように条例を改正して対応したところであるが、廃品回収業者については現在のところ、法令違反や市の条例違反をしていないという状況であれば、特に市としては関知できない。

### ○委員

市役所は資源を回収しても利益にならない。収集費用もかかるので、もし可能であれば、皆さんの地域で民と民で資源を売却していただいた方が、収集費用の削減につながる場合もある。市が収集し、売却益を得るよりも、回収量が減ったほうが、市民にとってメリットがあるかと思う。

### ○委員

豊中市でも再生資源集団回収を実施しており、空き缶、雑誌、新聞、ダンボール、すべて1kgあたり5円で買い取っている。

### ○委員

近所の戸建てが建っているところで、廃品回収に出している方を初めて見たもので伺った。

### ○委員

中にはみんなと一緒に集団回収に出すのが嫌だという人もいる。戸建てについて、集団回収登録団体の参加に必要な世帯数は6世帯か。

### ○事務局

概ね6世帯である。

## ○委員

資源ごみは、市の歳入になるという考えがあり、自分の利益になるということや、税金の観点からもその方が良いということなどを知らなかったので、一度お聞きしようと思った。

## ○委員

見開きのグラフの下の字が見えにくい。せつかくの情報なので、もう少し太字やポイントを上げるなどして、わかりやすく表記していただきたい。

二点目は、取組みを紹介している囲み記事の字の部分にピンクや青などの模様を入れているが、これは必要か。かえって見にくくなっているのでは、なくした方がすっきりしてわかりやすいのではないか。

三点目に、プラスチックごみのことについて記載しているが、下から5行目の「ワンウェイプラスチック」は、普段我々が使い慣れている「使い捨てプラスチック」という表記にできないか。「使い捨て」という言葉の方が一般的でわかりやすい。

## ○事務局

表記が見にくいという一つ目のご意見については、太字や大きくするなどの工夫で見やすい表記になるよう努める。二つ目の、記事の背景の色については、模様として入れさせていただいているものだが、見やすく修正させていただく。三つ目の「ワンウェイプラスチック」の表記については、「使い捨て」という表記を併記させていただく。

## ○委員

字の背景に色を使っているため、字が分かりにくい。何か意味があるのか。

## ○事務局

模様として入れているもので、目に留めていただくことを意図して入れたものである。色が無いものに修正させていただく。

## ○会長

この色あいや全体の構成はデザイナーが作成したものか。それとも市の職員によるものか。

## ○事務局

事業等報告書（速報版）は、市の職員が作成した。

## ○会長

デザイナーと称する人たちは目を引くようにきれいな色を使うということに力を注いで、その催しがいどこであるかということがよく見ないと分からないという本末転倒なポスターを作ることがあるので、中身を伝えるということに主眼をおいていただきたい。

グラフの下の文字（游ゴシック）が見にくいため、読みやすいフォントにしていただきたい。

## ○委員

色あいにもよるが、黄色なら色があるほうが字がよく見える。青や緑は、見えにくい。

## ○委員

市の発行物らしくないデザインというのも、ひとつの良さである。上下水道局が出している「ミズトキ」は、行政の広報物らしくない印象を受ける。市民は子どもから老人までいるが、ターゲットを絞って PR したいのであれば、若い人なら色がついていることで見てみようかなという気分になるかもしれない。色をつけるなら、個人的には、色を薄くして枠を濃くすると良いかと思う。興味をひくのと見やすさを両立するのは難しいところだが、また市民の意見も聴いて、ご検討いただきたい。

## ○委員

色のつけ方をもう少し研究して、フォントも変えれば、色はついている方が何となく楽しげな雰囲気が出て良いと思う。

## ○会長

この「犬ふんチョーク」を表紙に加えたらみんなもっと手に取るかもしれない。

今日の議題からはずれるが、買取市について、「環境事業所で実施する再生資源買取市では、水銀使用廃製品や小型家電も回収しています」とある。最近では、リチウムイオンバッテリーのように燃えたりするものや、インターネットなどの通信販売で買ったが、販売元に送り返せないというものが各家庭に増え始めている。自治体も手を出せない状況かもしれないが、東京都のように大規模な自治体より豊中市のような中核市規模の自治体から「何とかならないか」と声をあげることも考えていく必要がある。買取市の拡充など、今後興味を持つ方が増えるような取組みが進めばよいと思う。

## ○委員

犬ふんにチョークをしても悪いと思わない人もいる。うちの近所でも、犬ふんを放置するところを見た方が飼い主に注意をしたら、反対に文句を言われてしまった。(犬ふん用の)回収箱を設置していても効果がなく、なかには、(犬ふん用の)袋を持っていても、人が見ているときだけ取る人もいる。保健所で犬の登録をする際にチラシを渡すなどの対応はできないか。

## ○事務局

犬ふんチョーク作戦のちらしは、保健所などに置いている。

## ○委員

マイバッグ持参率について、現在約 80%となっているが、機運も高まり、来年度に向けて法令化されるような動きもあるので、さらに持参率も上がっていくと思われ、よかったと思う。

### 案件3. 「一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について」の諮問に係る答申（案） について

#### ○会長

続いて「『一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について』の諮問に係る答申（案）について」事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

（資料 3-1、3-2、3-3 に沿って説明）

#### ○会長

ポイントは、人口が増えており、災害もあったので、ごみの量が減っているという状況にはないが、それなりに理由があるので、引き続き減らす努力をしていこうということと、再生資源量とリサイクル率について、今後評価のあり方は変わっていくとは思いますが、今回は今までの流れで、もっと周知啓発を進めていこうという、二点である。

#### ○副会長

14 ページ③の「『事業系ごみ排出量』の増加」における要因分析と今後の方向性について、福祉施設から出る紙おむつ等のごみは、的確な周知啓発を行っても減らすのは難しいと思われ、高齢化に伴ってむしろ増えていく可能性があるものである。事業者とも協力して減量に向けた取組みを行っていくことは大切だが、やむを得ないごみとして、処理方法など周知啓発以外の角度からも考えていかなければいけない問題なので、「注視する」というような表現でもよいのではないかと思ったのが一点目である。

もう一点、15 ページのPDCAサイクルに沿って進めていくという部分で、文章中では「Check」から説明が始まっており、少し違和感があるので、やはり「Plan」から始まる順番にした方がよいのではないかと思う。

#### ○事務局

「③事業系ごみ排出量」については、ご指摘のとおり高齢化に伴い紙おむつなどのごみが今後増える可能性があるので、書き方を再度検討する。「PDCAサイクル」の順番についても、「Plan」から始まって「Act」で終わる文章への修正を検討する。

#### ○委員

家庭ごみの減量について、14 ページの下に記載されている集団回収や紙ごみの分別に真剣に取り組めば、家庭ごみはものすごく減る。

もう一点、食品ごみについてはいわゆる「3 切り運動」に今取り組んでいる。「使い切り」「食べ切り」「水切り」を徹底する。この二つを徹底的にやったただけで、ごみの量は三分の一程度減るので、是非ともしっかりと取り組んでいただきたい。

#### ○委員

レシートはごみになり、豊中市全域ではかなりの量になると思うが、何とかならないのか。

## ○事務局

現状として、感熱紙はまだ再生利用ができておらず、レシートは可燃ごみになる。レシートが不要であれば、もらわないというのも一つの方法である。

## ○委員

もらわないようにもするが、一日買い物に回った際にはたくさんのレシートが出た。市全体になるとかなりの量になると思うので、それが紙資源になるとよいのではないかと思う。

## ○委員

第3次ごみ減量計画におけるごみの量や一日あたりの排出量などの目標値は何に基づいて決めているのか。

## ○事務局

第3次ごみ減量計画の目標は、ごみの量を平成32年度には平成21年度と比べて20%削減するという大きな目標を立て、それに基づいて個別目標を立てた。個別目標については家庭系ごみの排出量の削減ということで、市民1人1日当たりのごみ排出量を平成21年度より17グラム削減すること、事業系ごみの排出量を平成21年度より約7,000トン削減すること、また資源化量については平成21年度より約5,000トン増加させることとし、減量目標を達成すると最終処分量を平成21年度実績の約115,600トンより約30%、約6,000トン削減することとなるということで、目標値を設定している。

## ○委員

平成21年度の基準値に対して目標値を設定したということですね。平成29年度の実績値は出ているがそれから目標値を設定したのではないということでしょうか。

## ○事務局

第3次ごみ減量計画の計画期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間であり、目標値は計画策定時のものとなっている。

## ○会長

以前に決めた計画中の目標というのは、簡単には変えられないので、現在とは齟齬のあるような内容になっている。ただし、これから作成する文書は年号表記を令和に改めるということでしょうか。

## ○事務局

資料3-2、資料3-3では「平成32年度」と記載しているが、これらの資料については5月以前に発行されたものなので、平成表記としている。答申については5月以降に発行するものとなるので、「令和2年度」と表記させていただく。



**○会長**

答申の文章について他になければ、この内容で進めていく。9月に市長に答申予定だが、微修正等はお任せいただきたい。

**案件4. 令和元年度（2019年度）第11期豊中市廃棄物減量等推進審議会の審議日程について**

**○会長**

続いて「令和元年度（2019年度）第11期豊中市廃棄物減量等推進審議会の審議日程について」事務局から説明をお願いします。

**○事務局**

（資料4に沿って説明）

**案件5. その他について**

**○会長**

それでは、その他、事務局から追加資料等のことで説明があればお願いします。

**○事務局**

（当日配布資料に沿って説明）

**○会長**

事業系一般廃棄物管理責任者研修会は、毎年開催しているのか。

**○事務局**

毎年開催している。

**○会長**

毎年同じ講師なのか。

**○事務局**

年度ごとに講師を選定している。

**○会長**

案件は以上である。その他皆さまから何かあるか。

**○委員**

資料3-1の17ページの一番上にある「環境学習・教育の充実」について、先日、減量等推進員とともに環境学習に参加した。内容が非常に充実しており、授業の進め方、資料の内容など本当に良いものだと感じている。

### ○委員

市の職員もよく勉強して良い指導をしていると思う。私も去年から2回、参加させていただき、大変感心した。子どもさんたちはみな大変熱心で、飲み込みがよく、学んだことが家庭に伝われば、ごみの減量につながっていくと思った。

### ○事務局

環境学習の受講後は、「家庭でできるごみ減量チェックシート」をお渡ししている。学校からいただく感想文では、家庭でしっかりごみ減量に取り組んでいる旨を報告いただいている。

### ○会長

最後にエールをいただき、良い終わり方かと思う。本日の審議会はこれにて閉会とする。

## 5. 閉会